第２回松山市観光振興計画策定会議

■日時・場所

日時：　令和８年 10 月８日（木）９時 30 分～11 時 30 分

場所：　KH プレイスビル３－１

■出席者

別添「出席者名簿」のとおり

■議事内容

１．開会

２．議事

（１）松山市観光振興条例と観光振興計画の位置付けについて（松山市）

条例は市民・事業者・関係団体が連携・協働する枠組みであり、行政の便宜のみを目的としない。

役割分担の明文化と市民参画を促す意図

観光政策の総合的・効果的推進、観光産業の持続的発展と市民生活の質向上への寄与。

（２）松山市観光の現状分析及び課題について（事務局）

強み: 道後温泉の集客力、松山城、歴史・乗り物、瀬戸内景観・柑橘、交通インフラ、広域連携、
来訪時期の偏りが少ない。コンパクトシティの快適性。

弱み: 道後・松山城への集中、滞在時間短、道後以外の認知率低、食のイメージ弱、シニア認知率低、
ナイトコンテンツ不足、データ活用不足、外国人受入未整備。

機会: インバウンド拡大、体験志向の高まり、サステナビリティ意識の向上。

脅威: 国際情勢、異常気象、人口減少・高齢化、国内旅行者減少、観光人材確保難、オーバーツーリズム等。

委員からの意見

・コロナ禍からの回復、国内客の伸び悩み・外国人客増加などのデータが不十分。

・過去の観光客数推移と要因の整理が必要。

・オープンデータ連携（行政・民間・大学）とデータマネジメント体制の構築が不可欠。

・ユースケース（需要予測、回遊分析、販路最適化）の必要性。

（３）松山市観光振興計画の基本理念及び基本方針について

方針１「瀬戸内の観光拠点としての役割を果たす」

広域周遊強化、道後・松山城以外も活用した面展開、ターゲット明確化と発信。拠点の定義・範囲明確化が課題。

方針２「高付加価値化・持続可能観光推進」

インバウンド向け高付加価値・ナイトタイム創出、ユニバーサルツーリズム等受入環境整備。

方針３「観光地経営の強化」

KPI/KGI 設定、データに基づく効果検証と施策展開、DMO 等で専門人材の育成・確保、横断組織・権限整備。

方針４「協働の推進とシビックプライド醸成」

市民が参加できるイベント・仕組み、成果の伝達。若年層の関与、オープンで風通しの良い体制

委員からの意見

・「松山らしさ」と具体化、計画が総花的で一般論に見えるとの指摘。施策から具体性を上げて「松山らしさ」を打ち出す必要性。

・これまで取り組んできた施策の経緯や成果と課題の分析が不足。

・道後温泉は「圧倒的な強み」であり、分散ではなく核として面展開する仕組みを本気で構築。

・交通インフラの重要性（高速移動手段、新幹線誘致の意義）を理念・方針に位置づける提案。
ただし５年の短期計画との整合を要検討。

・「瀬戸内の観光拠点」の定義・範囲・指標（交通・宿泊・認知・連携）の明文化。

・観光客数推移と変動要因のデータ分析を整理の必要性。

・観光が市民生活の質向上にどう結びつくかを計画内で明確化。

・短期の計画であるだけに、あるべき姿や市民参画など理解を求めていくためには、施策がイメージできるよう、理念・方針にもう少し盛り込む提案。

・市民目線の KPI 案（交通利便性、景観整備、雇用、文化保全、豊かさ実感度など）を検討。

・観光は外貨獲得・関係人口・雇用創出の機会。道後・松山城を入口に市内全体へ波及する循環モデルを構築。

（４）観光振興へ向けた施策について

広域連携・周遊性と地域資源活用

・三津浜、北条、道後、松山城、中島など地域特性を活かし「各町に一つの宝」を掲げ周遊性を高める。
移動手段整備が鍵。

・連携スケールの層別化（近郊/広域/全国/海外）と共同施策のリストアップ。

・二次交通の課題解決と個人旅行客向けモデルコース（市民も楽しめる）で連泊促進。

「食」地産地消型観光

・海産物体験・現地食の強化、鯛めし偏重から多様な名物づくりへ。市場・港湾活用と衛生・運営モデルの検討。

宿泊・人材・稼働

・市内宿泊は伸長する一方、道後は雇用不足等で稼働伸び悩み。短期（繁忙期支援・シフト最適化）と
中期（人材育成・住環境支援）の両輪で対応が必要。

民間投資・参画

行政任せにせず民間の自発的投資・参加を促進。

市民参画プログラム（学生含む）を具体化し、成果発信・参加導線を設計。

交通事業者連携

駅の再開発を集客・施設整備の好機として連動施策（広報、実証、イベント）を設計。

３．その他

今後のスケジュールについて（事務局）